

1. 基本構想策定に係る背景と目的

高千穂町を取り巻く背景を踏まえて、町が抱える**各種課題を改善した未来の姿(理想像)を掲げ、実現に向けたまちづくりを戦略的に取り組む**ための「**たかちほの杜プロジェクト**」の基本構想を策定する。
 <高千穂町を取り巻く背景>

<p>交通アクセスの飛躍的な向上</p> <p>今後、九州中央自動車道の整備をはじめとするインフラ環境等の劇的な変化が予測される。これに伴い、高千穂町の交通アクセスは飛躍的に向上し、広域的な人・モノ・情報の流れが活性化すると考えられる。</p>	<p>「地域拠点」の戦略的整備</p> <p>人口減少や観光の一極集中、地域産業の停滞、災害リスクの高まりといった町固有の課題に対応するには、従来型の施設整備を超え、観光・交流・防災・地域経済の複合的な機能を持った「地域拠点」の戦略的整備が必要不可欠である。</p>	<p>公共施設の老朽化に伴う施設集約</p> <p>公共施設の整備から長い年月が経過し、各種施設の老朽化が進んでいる。これらの公共施設の集約等による利便性の向上や維持管理費の抑制が求められる。</p>
--	---	--

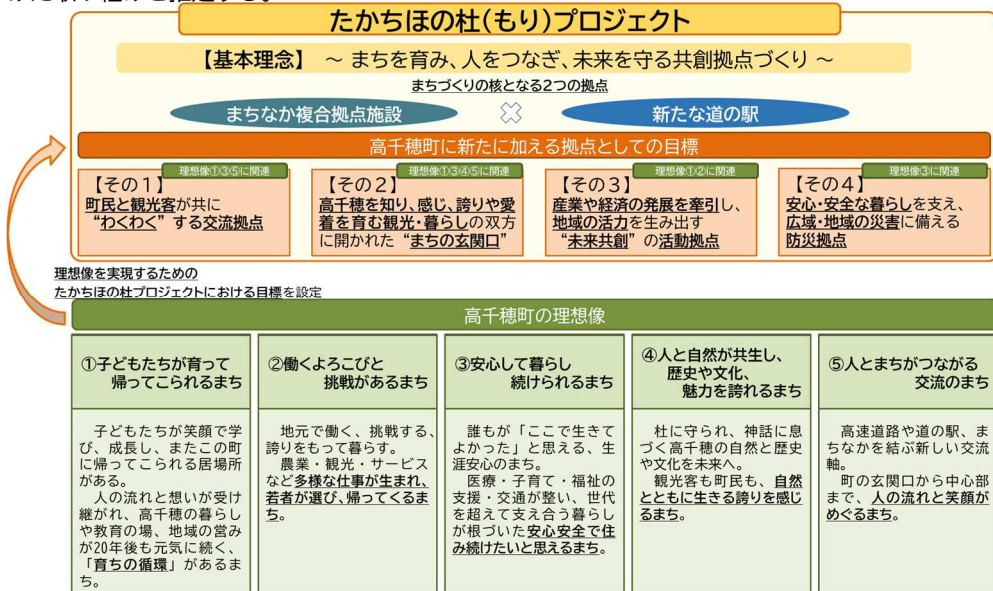
<基本構想策定の目的>

高千穂町が未来に向けて持続可能で大きな枠組みで地域社会を築いていくための**基盤づくり**の推進に向け、町が抱える各種課題を改善した**未来の姿(理想像)を掲げ、実現に向けたまちづくりを戦略的に取り組む**ための「**たかちほの杜プロジェクト**」の基本構想を策定する。

2. 本プロジェクトにおける目標と高千穂町の理想像

「たかちほの杜プロジェクト」は「第6次高千穂町総合長期計画」の重点プロジェクト（第3期高千穂町まち・ひと・しごと創生総合戦略）を**具体的に進めるための取り組みとして位置づけ**られている。

5つの高千穂町の理想像を設定し、**理想像を実現するためのたかちほの杜プロジェクトにおける目標を4つ**設定した。高千穂の杜プロジェクトでは、**まちづくりの核となる2つの拠点**として、**まちなか複合拠点施設**と**新たな道の駅**（以下、2つの拠点と示す）を整備することで、目標達成に向けた取り組みを推進する。



3. 2つの拠点の役割

高千穂町に新たに加える拠点としての**目標を達成**するための**役割**を設定した。これらの役割を**まちづくりの核となる2つの拠点で分担、連携**しながら**目標達成**や**高千穂町の理想像の実現**に向け取り組む。

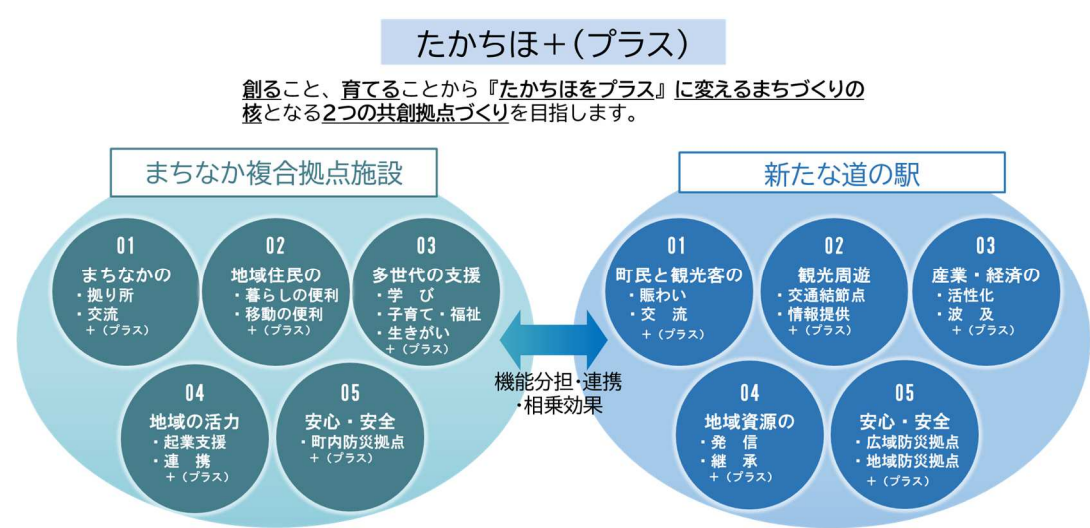
まちづくりの核となる2つの拠点の役割

まちなか複合拠点施設	新たな道の駅
<p>【目標その1】に対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町民が同世代や多世代での交流を通じ、生きがいや学びを感じ続けられる拠点。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客や来訪者が町民との交流の中で高千穂の良さを感じる拠点。 ・町民が賑わいを感じる拠点。
<p>【目標その2】に対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町民がコミュニティに参加する玄関口(通口)。 ・町民の生活の変化に合わせて、常に利用され、暮らしの便利が集約した拠り所となる拠点。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客や来訪者を迎え入れ、町内へ誘導する玄関口。 ・高千穂の自然や歴史文化等の魅力を町内外に伝え、誇りや愛着を醸成する拠点。
<p>【目標その3】に対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町民の起業を支援する拠点。 ・地域内外の事業者等の連携を生み出す拠点。 	<ul style="list-style-type: none"> ・賑わいや産業・経済の活性化の起点となり、町内に波及させる拠点。 ・町内外に対して新たなビジネスにチャレンジできる拠点。
<p>【目標その4】に対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内での災害発生時の災害対応力を高める拠点。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模災害発生時に広域・地域の災害対応の活動拠点や中継拠点を担う拠点。

4. 2つの拠点のコンセプト

まちなか複合拠点施設および新たな道の駅における目標を具体化するために、**2つの拠点のコンセプト**を設定した。**2つの拠点で機能分担・連携**しながら**相乗効果を生み出して**いく。

なお、新たな道の駅は全国動向である『道の駅』**第3ステージ中間レビューと今後の方向性**』に示される**地方創生・観光・防災の拠点**として**役割を担う**ことを踏まえて検討する。



5. 2つの拠点への導入機能

2つの拠点の目標・役割に応じて求められる機能を下表のとおり設定した。

2つの拠点の目標・役割に応じて求められる機能

	まちなか複合拠点施設	連携イメージ	新たな道の駅
【目標その1】に対応	①生涯学習拠点機能（図書館・文化施設等） ②子育て支援機能（相談窓口、屋内遊具施設、授乳室、事務所等） ③福祉支援機能（相談窓口、事務所等） ④飲食・交流機能（カフェ、交流スペース、広場等）	町民等の日常と非日常での賑わいや交流	①飲食機能（レストラン、テイクアウト等） ②物販機能（地元農産物や加工品の販売・提供等） ③遊び・交流・休憩機能（広場、遊具、展望スペース、全天候型施設等）
【目標その2】に対応	⑤コミュニティ形成支援機能（多様な活動が生まれる場、地域情報の発信等） ⑥地域交通の拠点機能（高速バス・地域内循環バス等停留所、待機スペース、二次交通の乗り換え等） ⑦コンパクトで生活しやすいまちづくりの拠点となる機能（中央公民館、子育て・福祉支援に関する施設等の集約）	2つの拠点間や地域内の周遊	④観光案内・地域情報発信機能（体験アクティビティ等案内窓口、外国人観光客受入拠点、観光資源のPR・ガイドランス等） ⑤伝統芸能の発信・体験・継承機能（夜神楽に関する展示・体験等） ⑥交通結節点機能（高速バス・地域内循環バス等停留所、二次交通の乗り換え、観光客駐車場等）
【目標その3】に対応	⑧起業・働き方支援機能（研修場所、認知症カフェ等） ⑨地域産業創出支援機能（6次産業化の商品開発等）	開発商品販売、事業実施、雇用創出等 ニーズ把握等	⑦チャレンジ支援機能（テナント出店スペース、商品販売等） ②【再掲】物販機能（地元農産物や加工品の販売・提供等）
【目標その4】に対応	⑩防災機能【町内】（避難所、災害時の情報発信等）	災害発生時の機能分担	⑧防災機能【広域・地域】（一時的な避難場所、部隊等の中継・活動拠点、物資等の集積拠点等） ⑨道路情報提供機能、休憩機能（駐車場、トイレ）※道の駅としての必要機能

6. 2つの拠点の配置方針

まちなか複合拠点施設は、**バスセンター周辺**に配置し、新たな道の駅は**総合公園北側**に配置する。

まちなか複合拠点施設には、**公共機能を集約した建物**や**地域交通の拠点機能**、**駐車場**、**広場**等を配置し、近接地に**移転予定の観光協会との連携**にも配慮し、**旧町立病院跡地**は**まちなか複合拠点施設と連携した公共的空間活用**を検討する。

新たな道の駅は、**高速道路利用者が国道325号との立体交差**により**直接アクセス可能**で、**国道の道路利用者も含めて休憩機能を提供できるように**配置する。



7. 2つの拠点への主な導入機能イメージ

2つの拠点に導入する主な機能のイメージは下記の通り。

<p>①生涯学習拠点機能</p>  <p>宮崎県延岡市駅前複合施設エックロス</p> <p>会話しながら個人やグループで学習できるスペース</p>	<p>③飲食・交流機能</p>  <p>佐賀県嬉野市道の駅「うれしのまるく」</p> <p>カフェやアイス・テーブルの設置など、気軽に休憩や滞在、交流できる機能</p>	<p>④コミュニティ形成支援機能</p>  <p>那覇市第一牧志公設市場調理体験室及び多目的室</p> <p>目的や利用形態に応じ部屋を仕切って利用できるスペース</p>	<p>⑥地域交通の拠点機能</p>  <p>宮崎県串間市道の駅「くしま」</p> <p>地域内循環バスの停留所</p>
<p>①飲食、②物販機能</p>  <p>新潟県阿賀野市道の駅「あがの」</p> <p>開放的な空間に導入された飲食・物販機能</p>	<p>③遊び・交流・休憩機能</p>  <p>福岡県田川郡大任町道の駅「おおとう桜街道」</p> <p>児童用遊具やインクルーシブ遊具</p>	<p>⑤伝統芸能の保存・発信・体験機能</p>  <p>大分県大分市道の駅「たのうらら」</p> <p>地域資源等の解説を映像で行っているスペース</p>	<p>⑥チャレンジ支援機能</p>  <p>群馬県前橋市道の駅「まえまし赤城」</p> <p>フードコートやテナ等のアウトドア</p>

※上記は導入機能のイメージを示すものであり、導入機能は今後具体化する

8. 今後のスケジュール

令和8年5月に基本構想をとりまとめ、令和8年度は、基本計画・概略設計を実施しつつ、関係機関との協議を進めると共に、住民説明・意見聴取等を実施しながら進める。

